

堺泉北臨海工業地域 (さかいせんぼくりんかいこうぎょうちいき)



写真出典：平成 28 年度版堺市小学校社会科『わたしたちのまち堺』P20 堺市教育委員会

『堺泉北臨海工業地域(さかいせんぼくりんかいこうぎょうちいき)』は、大阪府が昭和33年 [1958年]10月に、軽工業から重工業に変え経済発展をするため堺の海に臨海工業地域の造成(ぞうせい)を計画しました。さらに、昭和36年 [1961年]に泉北地区(せんぼくちく)の計画が加わり、原材料や製品の輸送に便利で、地盤(じばん)の安定した泉州沿岸(せんしゅうえんがん)を臨海工業地域(りんかいこうぎょうちいき)として造成(ぞうせい)することとなりました。

Q. どんな工場があったの？

A. 鉄鋼、電力、石油、化学、機械などの大工場があったよ。それぞれの工場は互いにパイプやベルトコンベアーで結ばれていたよ。原材料をつくることから生産までを行う重化学(じゅうかがく)コンビナートができたよ。

Q. 今はどうなっているの？

A. 臨海工業地域は、今は生産額が減ってきて、工場も少なくなってきたんだ。だから、活性化に向けて、臨海地域の再開発を行ったんだよ。

Q. 再開発ってなに？

A. 新しく環境にやさしい工場をつくるなど、最先端の21世紀型のコンビナートをつくっているんだよ。たとえば、「堺太陽光発電所」は、グリーンフロント堺での計画とあわせると、28メガワットの発電をしている、日本最大級のソーラー発電所なんだよ。

出典：平成 28 年度版堺市中学校社会科『わたしたちの堺』P14-15 堺市教育委員会